1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070402211
法人名	株式会社ウキシロケアセンター
事業所名	グループホーム　いこいの里白銀
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市小倉北区白銀1丁目2番7号シャトレ白銀1階 (電　話) 093－922－6003

評価機関名	株式会社アーバン･マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4－6　北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年11月10日	評価確定日	平成20年11月17日

【情報提供票より】(平成20年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	8　人	常勤　7人，非常勤　1人，常勤換算　7.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	8階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	42,500円		その他の経費 (月額)	(水道光熱費) 13,650円
敷　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (300,000円)		有りの場合 償却の有無	有 (6年間)
食材料費	朝食	400　円	昼食	550　円
	夕食	550　円	おやつ	円
	または1日当たり　1,500円			

(4) 利用者の概要 (10月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1	名	要介護2	2	名
要介護3	3	名	要介護4	3	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢　平均	82 歳	最低	58 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	健和会大手町病院／小倉記念病院／司城歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームいこいの里白銀は小倉北区の昔ながらの黄金町商店街の近くに立地し、生活環境は小倉北区の都心部でありながら、庶民的な雰囲気が残る環境を有している。ウキシログループに属し、「個人の人格を尊重」「家庭的な環境の下で安心と尊厳のある生活」「自立した日常生活」の理念にそって管理者･職員が一丸となって入居者の暮らしを支援している。かかりつけ医との連絡ノートを介し、入居者の体調管理にも配慮している。8階建てのマンションの1階に位置し、玄関を開けると広いリビングとなっており、そのまま直ぐに買い物にも行けそうな雰囲気である。小倉の中心街に近いという土地の利を備え、花火大会･夜市･蛍見学など都会ならではの小倉の風物詩を楽しむことができる。、また、小倉名物の祇園太鼓をホーム前で披露していただくなど、地域とのふれあい･交流の機会もあり、入居者･職員共に暮らしを楽しみながら支援しているグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目：外部4) 昨年度の外部評価では、介護計画の作成に関して指摘を受けており、個々の入居者の思いや希望を理解するため、ミーティングにて職員一人ひとりが必ず発言し、日々の職員の気づきなどを集約し、介護計画に反映していくように努めている。また、記録を詳しくすることで見えてきた部分が多く、記録による変化なども介護計画に反映させている。 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目：外部4) たたき台として管理者が評価を作成し職員全員で目を通し意見を聞いている。自己評価により、日頃の業務については客観的に見直すことができ、自己評価で日々のケアやサービスを振り返っている。評価後は改善できる部分は見直していきたいと考えている。
重点項目②	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み (関連項目：外部4，5，6) 運営推進会議は、2ヶ月に1回、定期的に開催している。日々の状況や前回の検案事項の結果を報告している。地域住民の代表としては、地域の有志でお米を配達してくれる人に参加を呼びかけ快く参加していただいている。町内会行事の参加や地域との交流の持ち方･ボランティアの募集など提案をいただき地域との連携を高めており、運営推進会議を活かした取り組みを行っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法･運営への反映 (関連項目：外部8，9) 運営推進会議に家族の参加を呼びかけ、意見や意向を言っていただけるように取り組んでいる。会議の席では発言しにくい場合は、面会時などに要望･不満を言っていただけるように取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3) 入居者と近くの黄金町商店街に買い物に行き、商店の人と顔なじみになっている。また、買い物･散歩の途中で公民館に立ち寄るなど交流を図っている。高齢者が多い地域で、行事は盛んではないが、小倉祇園太鼓の時はホームの前で太鼓が叩かれ入居者に喜ばれている。民生委員の会やボラティアの会に認知症について話す機会を持つなど認知症の理解を育む活動も行い、地域密着型サービスの役割を果たしている。

2. 評価結果(詳細)

（ □ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	いこいの里グループとして、地域密着型サービスとしての意義を理解し、地域との連携は「地域との連携と共存について」という方針のもと明確なビジョンを掲げている。その中では、≪介護かけこみ寺≫的な発想で地域に開かれたものを目指すとあり、目指す地域連携図が示され、地域の介護拠点及びネットワーク体制の整備など具体的にその機能の強化を打ち出している。地域密着型サービスとしての役割をグループとして独自のビジョンをつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、壁に掛けられ、理念の言葉を読み上げる意味を大事にし、朝のミーティングで理念を唱和し、職員にも浸透している。特に入居者の自立について、どう関わることが大事かを話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者と近くの黄金町市場に買い物に行き、商店の人と顔なじみになっている。また、買い物・散歩の途中で公民館に立ち寄るなど交流を図っている。高齢者が多い地域で、行事は盛んではないが、小倉祇園太鼓の時はホームの前で、太鼓が叩かれ入居者に喜ばれている。民生委員の会やボラティアの会に認知症について話す機会を持つなど、認知症の理解を育む活動も行い、地域密着型サービスの役割を果たしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	たたき台として管理者が評価を作成し職員全員で目を通し意見を聞いている。自己評価により、日頃の業務について客観的に見直すことができ、自己評価で日々のケアやサービスを振り返っている。評価後は改善できる部分は見直していきたいと考えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回、定期的に開催している。日々の状況や前回の検案事項の結果を報告している。地域住民の代表としては、地域の有志でお米を配達してくれる人に参加を呼びかけ快く参加していただいている。町内会行事の参加や地域との交流の持ち方・ボランティアの募集など提案をいただき地域との連携を高めており運営推進会議を活かした取り組みを行っている。		**＜取り組みの事実：続き＞**地域の民生委員さんなど、出席ができない場合は会議の議事録などを送り、継続的に関心を持ってもらうように働きかけてみてはいかがでしょう。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当ホームは特に独居や身寄りがない入居者が多く、行政と連携を高め、入居者の権利擁護に努めている。また、グループホーム協議会に加入し、組織を通じて行政との話し合いの機会を持つなど行政との連携を高めている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関しては、管理者・職員も身近にこの制度を活用している入居者がおり、権利擁護の必要性を自覚している。また、今後は、入居者や家族に、権利擁護の制度があることを説明し、実際に活用につながる支援をしていきたいと考えている。		
4．理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、家族に入居者の状況・金銭管理状況などを報告している。日々の入居者の表情を写真で撮り、写真を送ると共に入居者の体調、特に必要な方にはバイタルや受診結果を、また、買い物の領収書も同封し報告している。「いこいの里通信」も発行し、主な行事の入居者の様子や認知症ケアに関する情報・勉強会のお知らせ・行事予定など、極め細やかな情報提供を行っている。		**＜取り組みの事実：続き＞**日々の経過が克明に記録された手書きの報告書が作成されていた。家族からも様子がわかり、安心であると好評であった。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族の参加を呼びかけ、意見や意向を言っていただけるように取り組んでいる。会議の席では発言しにくい場合は、面会時などに要望・不満を言っていただけるように取り組んでいる。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最近、離職はない。法人グループ間で異動する場合は、新しく赴任する職員に、赴任する前から何度かホームに来てもらい、徐々に入居者とのなじみの関係を築いていくように努めている。また、余剰で職員を配置するなど工夫している。		
5．人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員につても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用にあたっては、男女・年齢・資格などではなく、向上心のある人を採用している。職員のスキルアップを図るために法人全体の研修に必ず参加させている。ミーティングでは、受講した研修の内容により、効果が上がると考えられる場合は、日々のケアやサービスの中に取り入れ、研修の成果を活かせるように取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	月に1回のミーティングや全事業所の集まる社員ミーティングにて人権教育を行い、人権に関する意識を高めている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会や近隣の勉強会・地域包括支援センターからの研修情報を把握し内容を掲示し、自由に参加できるようにしている。新人研修としては、3ヶ月、先輩職員が指導にあたり、職員のレベルアップにつなげている。ミーティングでは職員一人ひとりに意見を出してもらい提案により、口腔機能体操を昼食前に行うなど、職員の提案を積極的に実施し、職員のやる気を大事にしている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入おり、定期的な研修や交流・情報交換を行い、同業者間のネットワークを高めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたり、事前に自宅や病院・介護施設を訪問し面談を繰り返し、なじみの関係を築いている。また、入居者・家族・職員とどのような対応や雰囲気が入居者自身に一番合っているかを定期的に話し合い、入居者の過ごしやすい状況を生み出すように支援している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入浴がない日曜日は、職員自身も余裕をもって入居者と会話を持ち寄りそうなど、ゆったりした時間を大切にしたケアを行っている。調査の際には、職員の余裕のある対応が安心感につながっていると感じられた。日々の暮らしの中では、入居者を人生の先輩として、人に対する礼儀や物を大事にする心など学ぶことが多く、共に学び支えあう関係を築いている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	**○思いや意向の把握** 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話内容をよく記録している。これらをミーティングで話し合い、個々の意向や希望の把握に努めている。個々の意向にそって終始寄りそったり、突然、外出する入居者に同行するなど、入居者の意向を尊重したケアを行っている。	○	入居者その人の生活歴や生育歴・社会背景などがもっと明確になると、その人自身がより個性的に把握できると考えられる。今後に期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	**○チームでつくる利用者本位の介護計画** 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	担当者会議で話し合い、その内容を家族に伝え作成している。また、かかりつけ医の意見をいただいている。計画内容はわかりやすい言葉で、到達しやすい目標設定を行っている。今後は、担当者会議に家族も参加していただき、直接的に意見交換を行うことができるようにしたいと考えている。		
19	39	**○現状に即した介護計画の見直し** 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者が退院する際には、退院当日にカンファレンスを開き、状態に合わせた計画を作成している。また、月に1回ミーティングを開き、入居者の現状に合った計画であるかを検討している。計画は定期的にモニタリングを行い評価し、次の計画変更に関連づけている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	**○事業所の多機能性を活かした支援** 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ウキシログループで3つのグループホームを運営し、合同の運動会や祭りなど、楽しみごとを企画している。「いこいの里通信」も3グループホームの情報が把握でき、それぞれが独自の展開をしており、認知症ケアのノウハウがグループとして蓄積できている。また、近隣の保育園との交流があり、保育園児とのふれあいや保育園の行事にも、希望者と参加している。グループ企業としての多機能性を充分に発揮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	**○かかりつけ医の受診支援** 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医と24時間の対応ができる体制があり、定期的に月2回の往診が行われている。また、急変異常時には、看護師との連携もあり、安心の医療のバックアップ体制を整えている。かかりつけ医の受診には、職員が付きそい、かかりつけ医との連携を築いている。		**＜取り組みの事実：続き＞**受診の際には、毎日のバイタルが書き込まれたノートを持参し、医師と入居者との会話・入居者の表情・医師の説明が簡潔に具体的に記録されている。このノートは医師にも好評である。他の医療の受診の際にもこのノートで正確な情報提供を行っている。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応については、これからの課題として受けとめ、勉強会を行っている段階である。	○	独居の方や身寄りがない方の対応は、行政のケースワーカーなど具体的な話し合いが重要である。今後は看取りの方針など、協力医療機関・家族と話し合いながら、作成していくことが求められる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけの方法をミーティングなどで話し合っている。穏やかな声で話しかけるなど、言葉かけに注意している。また、個人情報の取り扱いには十分注意している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の毎日の過ごし方をミーティングで共有している。入居者のその日その日の心身の状況やペースに合せて気持ちよく楽しく過ごせるように一日の流れを調整している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事の取り方で嗜好状態を把握し、職員が献立を立てている。入居者には調理の一部の野菜の下ごしらえを手伝っていただいたり、食後の茶碗拭きやお盆拭きをお願いしている。食事も入居者自身の箸やコップを揃え、食事を楽しんでいただいている。昼食は職員も共に同席し、絶えず会話や笑い声があり、楽しい雰囲気であった。職員は、食事をとりながら、この次はどんな物が食べたいかを聞き、献立の参考にしていた。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ゆっくりと入浴できるように1対1で対応している。入浴は、入居者の希望により夜は疲れるとの訴えがあり、午後は買い物やドライブなど外出を楽しんでいただけるように支援しており、午前中に入浴できるように支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	誕生日には行きたい場所や食べたい食事、お化粧など、その入居者の希望にそって対応している。また、必ず手作りのケーキ作りを全員で楽しんでいる。その他、季節の行事や催しで花火・夜市・蛍見学・一泊の温泉旅行など季節感を感じていただけるように取り組んでいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの近くの黄金町市場には一人ひとり、同行し食材を見て買い物している。娘さんと美容院へ行かれる方もいる。日課として天気の良い日は散歩を楽しんでいただけるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	通りに面した玄関であるが、日中は玄関の鍵はかけていない。職員が必ず玄関に目配りをし、外に出かけようとされると、同行している。感知センサーを設置しており、安全面での設備を整えている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に1度、昼間・夜間を想定し避難訓練を行っている。消防団に連絡し、立ち入り検査・消防訓練の指摘・指導を受けている。	○	避難訓練の参加・協力を地域の方にお願いしているが、協力を得られていないとのことである。運営推進会議で議題にし、注意を喚起されると共に、出入りのお米やさんや行きつけのお店で「いついつ避難訓練をします」と話題にされるのも興味を持っていただける方法かと思われる。
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状態が記録されている。月2回の体重の増減や検査データをチェックし栄養状態の把握に努めている。入居者の状態に応じて、刻み食にしたり、肉が嫌いな方には魚料理や肉とわからないように調理している。水分摂取には特に注意し、一定の水分量の確保に努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、ﾄｲﾚ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	9つの居室が全部共有空間を取り囲むように設計されている。その共有空間はﾘﾋﾞﾝｸﾞ・食卓・厨房と広い空間でゆったりしている。昔懐かしい箪笥や季節感のある飾り・季節の花が置かれ、家庭的な環境となっている。落ち着いた採光や厨房の音が聞こえ、心和む空間となっている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や品物を持ってこられるように説明している。各居室は仏壇や鉢植えや若い頃の家族写真などが貼られており、入居者それぞれの個性を活かした住まいとなっている。		